

# ライブラリー 通信

LIBRARY NEWS

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN  
LIBRARY NEWS

発行:東北芸術工科大学図書館

tel. 023-627-2044

fax 023-627-2085

mail : library@aga.tuad.ac.jp

平成19年7月10日 No.22

2007. summer

[夏真っ盛り号]

## 生活景、あるいは都市の芸術性

建築・環境デザイン学科 教授 小林 敬一

初夏、六月の山形は爽やかである。調査に街を歩くにも適している。この時期、建築・環境デザインを学ぶ学生たちに出す課題に景観調査がある。対象は二年生。専門の基礎を学び始めたばかりで、本格的な設計課題に取り組むにはまだ早い学生たちに、写真を撮ってその街の景観の特徴をつかみ表現してもらおうというのだ。昨年来、城下町の名残が見られる山形市三日町、十日町、八日町界隈を対象地としている。

私たちが歩いてみると、これが楽しい。思いがけない都市の表情に出会い、シャッターを切るのに忙しい。写真の出来はともかくとして、心惹かれる風景を次々と見つけることになる。二年目には飽きるかと思ったが、昨年とは違った表情が見えてくる。学生たちもさぞ楽しんでることかと思いきや、ところが、課題ということで緊張しているせい、慣れぬせい、堅い表情で黙々と歩いているではないか。声をかけても、「いえ、あまり」とやはり浮かぬ表情。景観調査にも当然、慣れが必要。カメラに慣れ、地図の扱いに慣れ、そして都市景観の読みとりに慣れる必要がある。景観からは様々なことが読みとれるから、景観調査は街を考える入口であるが、奥もある。

しかし、難しいことを言わずとも、感じるままに街を見て、街の香りを嗅いで、雰囲気を感じてみれば、こんなに楽しいことはないし、まずこの街が好きになる。この街を良くしたいという前に、この街の良いところが沢山見つかるはずである。

私たちは、最近、生活景という概念に注目

している。生活景というのは生活空間の景観という程の意味であるが、生活者の抱くイメージや価値観、あるいは行動との関わりを問うているし、時間をかけてつくられた味わいのある風景や生活臭の感じられる自然発生的な町並みの良さを評価しようとのねらいもある。また、景観形成が町の顔づくりに偏ったこれまでの方法に対する反省もそこには込められている。町の骨格となる街路を立派に作ったり、歴史的町並みを保存したりといったアプローチは、それはそれで重要なことであるし、必要な場所ではそうすべきであるが、つくりものとの印象を与える風景になりやすい。町の顔の化粧はできても、普段の生活風景の質的向上は課題として残されたままになっている。平成十六年には景観法が施行となり、景観向上の取り組みがはかばかしくなると思われるかもしれないが、従来の事業的手法や規制的手法では、扱える地域も作り出せる風景にも限りがあると考えるべきであろう。

しかも、景そのものを見てその善し悪しを判断したり改善を考えるのは短絡的であり、芸術のための芸術という考えにも似ている。様々な意味の読みとりに可能にする景観を評価しようとする、その背後にある地域あるいは生活にまで遡ることになる。

景観というと、人々はとかく保守的になる。人と環境との結びつきを考えれば当然のことであるが、風景は変わっていけないわけではないし、また少しずつであるが着実に変わっている。この変化のプロセスに景観向上につながるしくみを組み込むことが大切であるし、それは人々の日常生活が生き生きとしたもの

となるように仕向けられたものでなければならぬ。願いは内実、すなわち地域や人々の生活の健全な成長なのである。

さて、しかし我々の生活景、このところ急速に色褪せてきているように思うがいかがだろうか。古いものはどんどん失われ、新しい建築は手作りのぬくもりを失っている。街に風土性は希薄になってきているし、建築群に秩序が感じられるわけでもない。そもそも都市から人の気配が失われ始めている。

それでもこうして歩いてみると、味わいのある古びた建物、よく育った庭木、咲き誇る花々があり、ちよつとしたところに空間の特徴を印象深く感じさせる風景がある。これらは生活景豊かなり頃の名残であるとしても、それでも実に魅力的ではないか。

アウラを回復すべきは芸術作品ではなく、地域の景観であり、週れば、もともと一回性を運命づけられた個々人の生活なのではないか。そう思い至って『複製技術の時代における芸術作品』(佐々木基一訳、一九七〇年、晶文社)を読み返してみよう。ペンヤミンは芸術作品にアウラの回復を求めているわけではないし、人々が礼拝的態度をもつことなく散漫に受けとめるものの例に建築をあげている。建築に接し、個々人の内にそのイメージは沈潜する。しかし、ここで改めて、沈潜してつくられる建築さらに都市のイメージの扱いを「生活景」という概念から問いたいと考える。深層に蓄えられた濃厚な時間。その掘り起こしから、生活や地域に輝きを取り戻すことができれば、もしそういうものがあればの話であるが、都市の芸術性の水脈に辿りつくのではあるまいか。

さて、そういうことなので、学生諸君には、この掘り起こし作業をその感性に従って十分に楽しんでもらえれば何よりである。

# 新着図書から

## 学生リクエスト紹介

前号で、図書館への所蔵リクエストの出し方についてご案内しました。今年度に入ってから既に百点余りのリクエストが寄せられています。実際、どのようなリクエストが出されているのでしょうか。ここにその一部を紹介いたします。思わぬ本が隣の友達の研究・創作活動に大きな影響を及ぼしているかもしれない。

どこにあるのかはあえてお知らせいたしません。自分で本を探そうちに、他のちょっと読んでみたい本に出会える可能性がありますから……。

### ●古書修復の愉しみ

〔アニメ・トレメル・ヴィルコックス／白水社〕  
「書物への愛」本書はアメリカの一流製本工芸・書籍修復家ウィリアム・アンソニーに女性としてはじめて弟子入りした著者が、書籍修復家として成長する過程を自伝的につづつた回想録である。その魅力は、書籍修復、それも西洋の古い稀覯本という一般の人がほとんど知らない特殊な世界を具体的な技術を含め、実に詳しく面白く、いきいきと描き出している点にある。書物の美に魅入られた人間が、自らの体験に基づき、製本工芸という仕事の技を学ぶ愉しみ、実践する喜びをつづつたところに面白さがある。

書物という知的財産を、数十年、数百年にわたって保存し、次代に伝えることの意味ははかりしれないほど大きい（白水社ホームページより抜粋）。

図書館職員としても是非一読せねば……もちろん学生諸君優先です。私たちは運良く書棚

にある場合に限り読むことにします。

### ●まんまこと（畠中恵／文芸春秋）

「しゃばけ」シリーズがブレイク中の畠中恵さん。意味は「ほんとうのこと」。江戸は神田の古名主の女関先に持ち込まれる騒動を頼りない名代の麻之助とふたりの悪友の活躍で解決いたします。読後感のあたたかな畠中ワールドを存分に楽しめる一冊です（文芸春秋ホームページより）。

畠中恵さんの本は他にも何冊もあり、確かにブレイクしています。

### ●いたずら妖精ゴブリンの仲間たち

〔ブライアン・フラウド／東洋書林〕  
クイヴァー、ルエルク、ビュール：といったずら好きで邪悪な聖霊ゴブリンの仲間たちを、ゴブリン界の祭りの様子や食べ物、武器などと共に、いきいきとユーモラスに描き出す。妖精絵画の巨匠ブライアン・フラウドがゴブリン一人ひとりを見事に描写。わが国で初めてのゴブリン大百科!! カラーイラスト多数満載（東洋書林ホームページより）。

### ●環境問題はなぜウソがまかり通るのか

〔武田邦彦著／洋泉社〕

京都議定書ぐらいいは地球温暖化は食い止められない。ダイオキシンはいかにして史上最悪の猛毒に仕立て上げられたか、官製リサイクル運動が隠してきた非効率性と利益誘導の実態とは？ 錦の御旗と化した「地球にやさしい」環境活動が、往々にして科学的な議論を斥け、人々を欺き、むしろ環境を悪化させている！（洋泉社ホームページより）  
六～七月の図書館企画展示のテーマは「地

球の命を考える」ですが、展示が始まる前にこのリクエストが届きました。とても身近で大切なテーマです。

### ●ヴィラ・マイレア

（アルヴァ・アールト、TOTTO出版）

アールトの最高傑作「ヴィラ・マイレア」が魅せる光と影のハーモニー。ル・コルビュジエやミース・ファン・デル・ローエと同時代を生き、北欧にモダニズム建築を確立した巨匠アルヴァ・アールト。数多くある彼の作品の中でも初期の時代の最高傑作として名高いのが、この「マイレア邸」です。（中略）築後六十余年を経て今なお住みつがれ、世界中の建築家たちの聖地となっている「生きた家」ヴィラ・マイレア。緑豊かな自然の中で、四季折々の陽射しを浴びてさまざまな表情を見せるこの家の魅力を、一五〇点のカラー写真や現在の住み手である施主長男へのインタビュー、実測図面などにより、余すところなく伝える美しい写真集です（TOTTO出版ホームページより）。

紹介文にあるように、かなり充実した写真集です。外国に実際に訪れることはそう簡単ではありませんが、「いつか、きつと」、旅する夢を膨らませるのにも大いに有効です。建築・環境デザイン学科以外の学生さんどうぞ。

リクエスト図書は、一度リクエストした学生さんに貸し出された後は、所定の本棚へと戻っていきます。「読みたい」、「必要だから」、リクエストされた様々な本は、本人だけでなく工芸大の皆さんに必ず何かのヒントを与えてくれる一冊になると思います。夢を膨らませる本、自分を見つめ直す本、身の回りの不思議なことを解き明かしてくれる本……。誰かが薦める「読んで欲しい本」、皆さん自身が「読みたい本」、どちらも図書館で手に取って、ページを開いてみてください。

## Topics

シーグラフ・

ビデオ・レビュー

二階のAVコーナーに、SIGGRAPH（シーグラフ）の映像資料が所蔵されました。シーグラフとは、アメリカコンピュータ学会のCG（コンピュータ・グラフィックス）分科会が主催する国際会議・展覧会です。毎年夏に開催され、世界中の多くの研究者から最新の論文が発表されるほか、様々なジャンルのCG映像が集結する「世界最大かつ最高のCGの祭典」と言われています。本学では、図書館長の西村宜起教授が所属しています。

今回コレクションに加わったのは、VHSテープ三七本・DVD二枚。収録されているのは、一九八〇年から昨年までの優秀作品で、実に一五〇〇点にも及びます。西村館長が関わった作品や、卒業生たちの作品も収録されています。

その特徴は、コンピュータ技術の発達とともに歩んだCGの表現の歴史が網羅されていることです。はじめは技術者だけのものだったCGが、時代の中で、多くの人が楽しめる自由な表現方法に変化していく過程を見ることができます。ハリウッド映画からCM、ゲーム、アニメ、科学シミュレーション、アート表現、世界の学生作品など様々なCGが、ジャンル、権威に囚われず同じ土俵で扱われており、当時最新のスタートウォーズの特撮映像が上映された直後に、本学卒業生の作品が続けて登場したことも。

技術進化の歴史を辿りつつ、無限に広がる表現の可能性を体感しながら、最先端のCGのクオリティを楽しんでください。そして、積極的に世界に挑戦してみたいかがでしうか？

# Information

ガレリア・ノルド／スタジオ144／AVルーム

## Galerie Nord

●7/17(火)～21(土)

「1/31(水)展」

日本画2年百瀬他男3人の展示です。  
(日本画2年／百瀬広宣)

●7/23(月)～28(土)

「大学院1年生による中間研究報告展(彫刻)」  
(彫刻コース)

●7/30(月)～8/7(火)

「もっしやりもじゃもじゃふっさふさ」  
概念学科による展示です。  
(映像2年／小玉大介)

## Studio144

●7/17(火)～28(土)

「CGとワタシ展」

毎年開催している映像コースのCG展。  
(映像コース)

## 図書館の企画展示・上映会

4月～5月末まで、「図書館春の企画：人として生きてゆくことを考える」をテーマとして図書の展示・上映会を開催しました。期間中、大勢の方々にお越しいただきありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。お気

付きの点、忌憚のないご意見をお待ちしております。

6・7月は、「地球のいのちを考える」の共通テーマのもと、次の企画を用意しております。

### ●図書の展示の部

■メイン展示6/5～7/31

「地球のいのちを考える本50選」

現在、地球温暖化による危険信号が世界中で点っています。地球環境のために私たちに何ができるか考え、行動してみませんか。地球と「いのち」に関する環境問題の本、写真集、小説等約50冊を展示し、貸し出します。また、教職員の推薦本や新刊本も随時追加展示します。

■第2展示7/3～7/31

「海を旅する！地球を感じる30冊」

すべての生き物は海から生まれました。私達にとってかけがえのない海。その美しさや魅力だけでなく、人間とのかかわり、環境についてなど、様々な視点から海について考えます。写真集、図鑑、小説等30冊を展示します。

6月の第2展示は、「アラスカを愛した写真家・星野道夫の世界20選」を行いました。

### ドキュメンタリー映画上映の部

上映会会場はAVルームです。

■7/19(木) 午後5時30分～

「ドキュメンタリー上映会45北極のナヌーク」

ロバート・J・フラハティ監督／アメリカ／1922／50分

ドキュメンタリーフィルムの父、R・フラハティによる、厳しい寒さと近代文明のない世界で暮らす人々を捉えたドキュメンタリー。日本本州の半分を超えるほどの面積しかないカナダ北東部アンガヴァ半島に暮すイヌイット一家の一年にわたる生活を描いたドキュメンタリー史上に残る傑作です。

### <10・11月企画の予告>

テーマ「芸術をとおして戦争と平和を考えるーきつと来る！人間の意志が戦争を止める日が。」

### ●図書の展示の部

■メイン展示10/2～11/30

「戦争と平和と人類の未来について考える100冊の本」

■第二展示

10月「戦争と七人の写真家」

11月「戦争と七人の芸術家」

### ●ドキュメンタリー映画上映の部

■10月「ドキュメンタリー上映会46

イラク～ヤシの影で」

■11月「ドキュメンタリー上映会47

メランコリア3つの部屋」

詳細は、次回のライブラリー通信で紹介いたします。お楽しみに。

## 寄贈図書紹介

先生方や地域の方々、美術館・博物館から図書の寄贈を受けています。ここにその一部をご紹介します。この場を借りて御礼申し上げます。(敬称略、順不同)

- ・ヤング・ポートフォリオ2007、東北の聖と賤、鬼と修験のフォークロア 内藤正敏
- ・狩猟と供犠の文化誌 六車由美
- ・平泉藤原氏と南奥武士団の成立 入間田宣夫
- ・日本統計年鑑、都市計画年報、日本都市年鑑、ビルはどこまで高くできるか(翔泳選書)、ハウステンボスの挑戦、1,000メートルビルを建てる、情報革命の光と影、占星学、電話するアメリカ、ITベンチャーに飛び込んでわかったこと、マネジメント、開発者列伝、書きたい！書けない！、代官山再開発物語、地域術、表現のビジネス、ローマで王女が知ったこと、ラビリンスの都市、東北の起業家たち、塔の思想、いかにして100万円でインディーズ映画を作るか…他160点 水鳥川和夫
- ・別冊みかんぐみ 竹内昌義
- ・出土建築部材が解く古代建築 宮本長二郎
- ・きょうは、とくべつ… 世田谷美術館

- ・町絵図・村絵図の世界 東北歴史博物館
- ・京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書 京都国立博物館
- ・佐々木宗一郎展 秋田県立近代美術館
- ・もうひとつの楽園、人間は自由なんだから、Another story、妹島和世＋西沢立衛／SANAA、ゲルハルト・リヒター 金沢21世紀美術館
- ・イノシシの文化史 岩宿博物館
- ・クリエイターズ長大作／細谷巖／矢吹申彦 世田谷美術館
- ・清水登之展、柄澤齊展 栃木県立美術館
- ・山本森之助 長崎県美術館
- ・アンドリュウ・ワイエス水彩素描展 常葉美術館
- ・はばたく日本画、新潟の作家100人 新潟県立万代島美術館
- ・今野忠一展、金山平三・山形の風景展、両洋の眼 天童市美術館
- ・加山又造；アトリエの記憶 多摩美術大学美術館
- ・デジタル遊園地 長崎県美術館
- ・源氏物語手鑑研究 和泉市久保惣記念美術館
- ・国立西洋美術館展覧会レポート1985-2005 国立西洋美術館
- ・府中市美術館所蔵品目録 府中市美術館
- ・玉川信一展、New spirits 福島、柳宗悦の民藝と巨匠たち展、爆発する芸術、名取洋之助と日本工房「1931-45」、ジェームズ・アンソール、田園の夢、

- ハギレの日本文化誌、野地正記、風景読本 福島県立美術館
- ・日本の南画 本間美術館
- ・ベドロ・コスタ、Re: search、85/05 せんだいメディアテーク
- ・詩情の造形 郡山市立美術館
- ・橋本博英展 城西大学水田美術館
- ・ピカソ、ドガ、ダリ、シャガールのパレエ ポーラ美術館
- ・絵本作家ワンダーランド 読売新聞大阪本社
- ・夏の思いで 安曇野市豊科近代美術館
- ・保井智貴展 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館
- ・ポケット・ミュージアム、カミーユ・クローデル、福島県立美術館収蔵作品 図録、名画の散歩道、ドキュメント福島 福島県立美術館
- ・IAMAS IAMASメディア文化センター
- ・とよた美術展 豊田市教育委員会
- ・岐阜おおがきビエンナーレ
- ・ダンス！ 栃木県立美術館
- ・ロダンの系譜 美術館連絡協議会
- ・六十里越街道、最上川、奥の細道、越後街道、小国街道、会津街道、浜街道、米沢・板谷街道、二井宿・大塚街道、出羽三山参詣道 庄司英樹
- ・山形市内の指定文化財による 屏風絵名作展、生まれるイメージ 山形美術館
- ・町絵図・村絵図の世界 東北歴史博物館

# 掲示板

最近の利用相談

図書館でどんなことを知りたいですか？

●イタリアの都市「マテラ」の写真をみたい。また、「マテラ」のスペルを知りたい。

「マテラ」で検索してみましたが、適切なものが見つかりませんでした。同じ条件で「Webcat Plus検索」を試してみたところ、「VHSナポリ歴史地区・マテラの洞窟住居群」というものがヒットし、図書「アタタから「マテラ」が世界遺産に登録されていることがわかった。」「ユネスコ世界遺産」を案内。その他、地誌・紀行に分類されている「地球の歩き方」やその他イタリアのガイドブック等に「マテラ」の写真と解説がありました。

●山形市を空から見た写真はありますか？

とりあえず「山形」「写真」で検索してみました。八件ヒットしましたが、「新ふるさと巡回」山形県航空写真地図二〇〇一年版」がよさそうなのでおすすめしたところ、もう少し古いのがご希望とのこと。『ゆとり都OPAC』で検索すると、山形大学、県立図書館、市立図書館で、一九八一年版を所蔵していたのでご案内しました。

●猫の本「育て方」を知りたい

てつきりデッサンの参考資料なのかと思いい動物図鑑のコナーに連れて行ってしまいました。人の話はきちんと聞かなければいけないと反省しました。育て方は、【6産業】に分類されています。飼育↓畜産業という流れです。ちょっと発想しにくいと思われまふ。この相談を受けた時点ではあまりよい本がありませんでした。相談者から、「こういう昭和の香りがする本ではなくて……」と眩かれ、

大変衝撃を受け、新しいものを何点か所蔵することにしました。確かに、ご案内した昭和の本は書体もイラストも古い感じで、悲しくも「これじゃない」という評価もやむなしです。「なんだかこの分野は選書がまいまい」と思っている方は、職員に相談してみてください。

●アバカノビッチのカタログはありますか？

検索システムの不便なところは、一致しないヒットしないことです。特に、外国人名は厄介です。この相談の場合、「アヴァカノビッチ」で検索すれば、一点見つけることができます。正式に「Abakanowicz」で検索すれば、他にも二点探し出すことができます。但し、外国語の綴りの場合もあくまで一致させなければヒットしません。図書データには、本体に記されているとおりの記述しかないのですが、柔軟な検索ができることも簡単で便利なコツがあります。それは、\*(アスタリスク)をつけることです。

今回の場合なら「ABA\*」で検索できます。つづりが長すぎる時や、記憶が曖昧な時はこの検索方法がおすすめです。

●「アルテ・ボーヴェラ」に関する資料はありますか？

正式な綴りが不明だったので、アルテボーヴェラで検索しましたが、何もなし。「Webcat Plus検索」でもヒットしません。「アルテ」と「ボーヴェラ」に分解したらヒットしました。図書データから、「arte poveral」の綴りがわかり、芸工大蔵書検索に戻って調べたところ、三冊の洋書が見つかりました。言葉の意味については、「世界美術大事典」や「現代美術を知るクリティカル・ワーズ」などに記述されています。

●日本髪、特に舞妓・芸者の髪形についての資料を探しています。

相談者は、自分で「舞妓」「芸者」のキーワードで検索してみたが、欲しい情報が得られなかったとの事。検索項目の、「標題」を「全て」に変更し、「日本髪」で検索すると、「結うころ」日本髪の美しさとその型という本が見つかりました。更に「髪型」「カミガタ」で検索、それぞれ「歴代の髪型」、「黒髪」の文化史」が検索されました。

●「レッドアンドブルー」の製図をみたい

何度かプロダクトの学生さんたちから問い合わせを受けたので、今では「レッドアンドブルー」というのが、トーマス・リートフェルトがデザインした椅子であることを覚えめました。椅子に家具に関連する書籍は「芸術」と「工業」のどちらにあるのでしょうか。家具のデザインや歴史に関するものは「芸術」に分類され、「工業」に分類される場合は、どちらかという製造に関する事、材料や着色などについて書かれているものが多いようです。問い合わせの「レッド・アンド・ブルー」

## 司書るうむ

先日、図書館関係の研究講演会に参加するため、東京の某大学を訪れた。地元の大学以外に足を踏み入れるのはかなり久しぶりだったこともあって、それはちょっとした驚きを伴うものだった。というのも、武蔵野台地の住宅地の一角に広大な敷地を持つそのミッション系大学の佇まいは、あまりにも本学とは違っていたから。

最寄り駅前から乗った大学行き路線バスの終点は、表通りに面した正門から数百メートルの並木道を構内に入り込んだところにあつた。バスを降りて、垂直に切り揃えられた生け垣のカーブに沿って緑に囲まれた遊歩道を進むと、まるで自分が本場に東京にいることが分からなくなってしまうくらい、静寂な整然とした空間に入り込んだ。それにしても、同じ大学とはいえ、ここま

は、作品の名称に過ぎないため、この単語で検索することはできません。検索する言葉を「RIE TVE LD」に替えてみると洋書を含め四件、いずれも製図は見当たらない。椅子で検索すると件数が多いので、「椅子」「デザイン」の組み合わせで検索してみると十六件、実際に図書を見てみると、その中の「椅子構造とデザイン」に簡単な製図が記載されていました。「レッド・アンド・ブルー」自体はかなり有名な椅子らしく、写真やデザインナーの説明であれば色々な本に記述がありました。

図書データには、タイトル情報のほかに、内容を表すキーワードが入っている場合があります。それをも含めて検索したい時に、検索項目の「標題」を「全て」に変更するという簡単に役立つ裏ワザがあります。

で雰囲気が違うものだなあと思ったのは、良い意味でも悪い意味でもない。人にそれぞれ個性があるように、大学にもそれぞれの目指す使命や役割が人格として存在し、キャンパスの表情となって現れるものなのだ。そして、その基になるのは建学理念だったり、伝統だったりするのだろう。

「隣の芝生」や「井の中の蛙」を持ち出すことは簡単なのだが、今の時代、単純な比較から得られることよりも大切なことがあるような気がする。もっと自分の足下を掘り起こしてみ、そこにあるものをしっかりと自分のものになければ……。今さらながら、そんなことを考える小さな旅になった。

さて、初めて芸工大を訪れた人は、その佇まいに何を想うのだろうか。

(図書館事務局長・加藤義彦)